

秋の大交流会「バスハイク2014秋」 ～秋の千葉県九十九里へ～

実施報告書



主催：広域避難者「秋の大交流会～バスハイク2014秋～」実行委員会

東雲の会/東北の絆サロンFMI会/足立区新田ふるさと会/むさしのスマイル/青空会/みちのく
まほろば会/とみおか子ども未来ネットワーク/コスモス会/人の輪ネット/町屋六丁目ミニサロン
/鷺宮都営住宅自治会/広域避難者支援連絡会 in 東京

あいさつ

実行委員長からのご挨拶です

2011.3.11. 東日本大震災という未曾有の災害と原発事故により故郷を離れ、親類や友人知人など様々な「縁」によって東京都に避難をして、もうすぐ4年を迎えようとしています。

月日が流れるのはとても早く感じられますが、単に4年という歳月は改めて考えて見ると長く厳しい避難生活であったと感じます。中学校、高校であれば3年で進学したり、就職したり、高齢者は年を重ねる毎に老いていくものです。避難当初と比べれば家庭環境は劇的な変化が訪れているのですが、なぜか未だに安心して生活を送る事が難しいと感じてしまう事があります。「縁」があり避難をして来たのですが急激な環境の変化に戸惑い、残して来た故郷への思いも相まって、苦しい時間を重ねている事に変わりはありません。

しかし、避難当初は行く先が見えずに見知らぬ土地での生活や被災元の住民との断絶など不安な事ばかりであった様に記憶しています。そのような中で受け入れて頂いた東京都の皆さんのおかげで、現在では何とか避難生活を送る事が出来ているのだと感じております。

私達にとっての避難生活は「支援」によって成り立っていると思われ知らされる事が多々ありました。いつ故郷に戻れるかわからない状態の私たちによりそいながら一生懸命に話を聞き、困っている事があれば共に対策を考えてくれた方がいたし、同じく避難をしている方との交

流の中で問題を共有した事がなによりありがたかったことであつたし、「自分だけではないんだ」と感じる事が出来ました。

現在も完全では無いにせよ、一定の安定的な生活が様々な支援によって保たれている状態であり、家庭環境の変化にも辛うじて対応できる様になって来た事もあって、自分の周りの様子が改めて見えてくる事が多くなりました。同じ東京都に避難している方々はどのようにしているのでしょうか、自分自身も沢山の方の支えによってこのような心境になった事も考えて見ると同じ当事者だからこそ、話が出来る事もあるのではないかと思える様になりました。東京都へ避難している方は全国でも最多であり、各地域で自助団体が多いという事も広域避難者支援連絡会 in 東京の方の情報で知りました。

各地では様々なサロン活動が展開されていて、その情報交換の場を設定してもらえ事が出来た事によって少しずつ顔と名前がわかるようになり、支援の状態も含め、都内各地に避難している同郷の方々の様子などの話を聞く事が出来る様になりました。もし叶うのならば、各地の自助団体との交流を通して、もっと同郷の話をしたり、被災元の状況を話したり出来ないものかという思いになりました。

各地の自助団体は全体的に高齢者の方が多い事もあり移動という事への戸惑いも見受けられましたが、ボラン

スケジュール

交流をメインにゆったりとしたスケジュールを組みました

<11月8日初日>

07時30分～09時00分 集合時間
11時00分 一宮シーサイドオーツカ到着
11時15分 芋煮会 準備開始
12時00分 芋煮会
13時30分 参加者同士での交流会
16時00分 自由時間
18時00分 夕食

<11月9日二日目>

07時00分 朝食
08時00分 ホテルのロビー集合
09時00分 バスで内房に向けて出発
11時30分 浜金谷「波留菜亭」にて昼食
12時30分 南房総マーケットプレイス the fish(買い物等)
14時30分 浜金谷出発
17時30分 解散(集合場所にて)



当日はあいにくの小雨模様となつてしまい、予定されていた「中庭でのいも煮会」や、夕食後の「星空観賞会」が実施できなくなつてしまいましたが、その分、交流の時間が多く取れました。



ティアの方の手助けもあって比較的移動しやすい所として足立区と板橋区の方々に交流会を始めたのが大きなきっかけとなりました。その中では思いもよらない「再会」があり、「こんなに近くにいたのに知らなかったよ」と言いながら、涙したご高齢の女性の姿は未だに忘れることが出来ません。この交流会によって合同事業の話や、その他の自助団体が運営する交流サロンへの訪問などが始まりました。

その中で始まった大きなものは「お正月準備の会」というものです。本事業は今までであればお正月を迎える際に沢山お餅をついて、帰郷する子や孫の為に準備をする事が日常であったのですが、避難生活をしてからはそのような事が出来ていない事から、始めたものです。その際に、各地の自助団体の方も来て頂いた事によってより一層の関係が築けたように思います。そこで広域避難者支援連絡会 in 東京の方に相談をして自助団体の会議がスタートしました。昨年も足立区と板橋区で行った「バスハイク」に参加している団体の代表者を中心として行う事が話され、支援者のバックアップの基に企画されました。初めは手さぐり状態であったのと、会議の主体が当事者である事から、戸惑いながらスタートしたのですが、徐々に話が盛り上がり行き、その中で目的を共有する

事で関係性も密になる様子は頼もしさを感じられました。

震災以来、自分たちが「支えられる側」でいる事への言い表せない思いというのがあり、しかしながら避難先ではどうしてよいのかも解らなかつた方にとってはこの「バスハイク企画」は新たな一歩になった様に感じました。

「バスハイク」当日は約 80 名の方が東京の各地より集まり、様々な交流会が展開されました。この企画では宿泊をする事で、自助団体の代表者だけではなく、被災元同士や避難先同士、若者や主婦の方など様々なグループで時間を気にすることなく、ゆっくり話をすることが出来ました。そんな様子からもこの企画が今後の避難生活にとって有意義なものとなったと確信しております。

避難生活はより一層過酷なものが予想されます。自助団体と支援団体、東京都の皆様と共に先を見いだせる様な事業が展開される事を願っております。

最後に本企画に関わって頂いたたくさんの皆さまに感謝を申し上げますと共に、今後とも何卒よろしく申し上げます。

2015.01.07 実行委員長 市村高志

会計報告

本当にたくさんの方々から応援をいただきました

収入	決算額	予算額	差額	備考
参加費	¥380,000	¥500,000	-¥120,000	76名×¥5,000
支援金	¥1,540,292	¥1,665,000	-¥124,708	東京労働者福祉協議会/全労済東京都本部/中央労働金庫/東京都生活共同組合連合会/(株)勤労者サービスセンター/真如苑/昌玲寺/まっくす
総収入	¥1,920,292	¥2,165,000	-¥244,708	
支出	決算額	予算額	差額	備考
宿泊費	¥956,964	¥1,500,000	-¥543,036	75名の宿泊費
移動費	¥560,105	¥315,000	¥245,105	バス借用代等
昼食費	¥182,656	¥150,000	¥32,656	
保険費	¥17,175	¥30,000	-¥12,825	行事保険加入費：75名
会議費	¥100,224	¥70,000	¥30,224	実行委員会(全7回)開催費
印刷費	¥98,820	¥30,000	¥68,820	報告書作成費
予備費	¥4,348	¥70,000	-¥65,652	振込手数料等
総支出	¥1,920,292	¥2,165,000	-¥244,708	

実行委員や参加者の皆さんからの声

秋の大交流会バスハイク

足立区新田ふるさと会 田中せつ子

会議の後のお茶会でぜひとの実行委員会のお誘い、え～と思いながら参加することになりました。何度かの打ち合わせの中で皆さんと会う楽しみに、下見に行った時は偶然にも身内の知り合いの実行委員さん。喜びの会話。時間の過ぎるのもわすれてしまいました。

当日は、参加の皆さんが久しぶりの出会いがあるよう願う事でした。いも煮、とても美味しくおかわりまでしてしまいました。天候が悪く星が見られなく残念でした。皆さんカラオケに集まって来てくれてほんとうに楽しい時を過ごす事ができ、ありがとうございました。

バスハイクと一緒に参加した方の話が一番だと思い、以下、感想をお願いしました。

○ ○ ○

霜月や 被災の友と ちばの旅 中野くに子

旅好きの私も被災以来加齢の心配もあり役員の方におことわりしましたら、大丈夫とのお言葉をいただきましたのと、息子の同席もあって参加させていただきました。足立区新田ふるさと会十人のお友達です。

空模様を気にしながら、心はるるんバスで王子駅まで電車で東京駅に、東京駅も初めです。バス席もグループと一緒に一安心。東雲団地で小高の友達と合流賑やかになりました。自己紹介もあり、私も小高がふるさと、なつかしさや嬉しさで小高の役員の方に友達の話に夢中になってご迷惑をおかけしたかもしれません。途中車窓からコメを作った荻田の景色に農家の私には羨ましく感じました。

昼はパーベキューと聞きましたがホテルに着いて、雨のため中止とか役員の方々も大変だったでしょう。夜はホテルの和太鼓のおもてなしを受け嬉しかったです。食事には私の大好きなエビチリもあり盛返し戴きました。とてもおいしかったです。部屋もふるさと会と一緒に助かりました。皆カラオケに行き私と秋元さんと二人で初めて海水温泉に入浴。役員の方に感謝しながら原発を忘れた夢の一夜でした。

千葉の海は広くおだやか。被災者には嬉しい限りでした。朝食は和食にして無事の体に一安心。玄関で記念の写真をパチリ、帰路のバスに乗る。昼食とおみやげを金谷にて。途中海ほたるで素晴らしい眺めに感動。バスの中も思い思いの話を聞きながら無事帰宅できました。八十六歳至福の旅でした。

企画されました役員の方々に厚く御礼申し上げます。

バスハイク、九十九の里

東雲の会 高橋佑治

東雲の公務員宿舎(応急仮設住宅)に避難して三年半が過ぎましたが、その間いろいろな関係の方からの支援がありました。心から感謝しております。

この度の「バスハイク2014」は1泊2日の旅で、宿泊を伴う旅行の支援は初めてです。当東雲住宅からの参加者は22名で、皆さん楽しくて良かったといっていました。

ホテル到着後の交流会は特に良かったと思います。これまで交流の無かった他の避難所の方と、テーブルを同じくして話し合うことができました。また、同郷の方と出会い、積もる話に花を咲かせる事もできました。夕食後のカラオケは多くの参加者で盛り上がり、上手な歌を聴きながら楽しく交流ができました。また、部屋が一緒になった方と震災の体験談を語り合ったのも良かったと思います。自分以外の家族全員が津波に吞まれて一人ぼっちになった人の話を聞かされて、自分よりまだまだつらい思いをしている人がいるのだなと思いました。今回の宿泊旅行は、これまで交流の無かった他の避難所の方と交流ができたことが一番良かったと思います。避難所内の交流に留まる事が多い現状ですが、繋がりを通して少しでも改善して頂ければと思います。

移住を余儀なくされている人にとって新天地で一人ぼっちになる不安を抱えている人が多くいます。これにどう対応すればよいか、県外移住者避難者に対する相談窓口がほしいところです。



到着後にさっそくいも煮会の準備が始まりました



最初は避難先が同じ方々同士でテーブルを囲みました



2014 バスハイクに参加して

コスモス会 溝上加代子

私は板橋区の成増団地に住み、その成増団地で自治会の事務の仕事をしています。当団地に23年4月に入居された時から避難者の皆様のご支援のお手伝いをさせていただいております。

今回のバスハイクには、団地に住む3名の避難者の方と参加させていただきました。

実行委員の一人として、皆様から楽しかったとの声を聞きホッとしました。実行委員として数回の会議、視察旅行に参加させていただきました。参加者の皆様に喜んでいただくためにどうすればいいか真剣に考え意見を出し合い一つの目標に向かって団結していました。実行委員の思いと参加してくださった皆様のご協力で今回は楽しい旅行になったのだと思います。私は支援者と言いながら被災者の皆様のお陰で色々な事を一緒に体験し、貴重な時間を過ごさせていただき、元気をいただいています。今回もこの旅行のメンバー、実行委員に入れていただいた事に感謝しています。



ホテルの支配人の方が地元の太鼓グループを呼んでもてなしてくれました



後半は、避難元が同じ方との交流となり、お酒もすすみます

バスハイク感想

人の輪ネット 能登春男

昨年11月、バスハイクに参加しました。このバスハイクは一泊二日で南房総のホテルー宮シーサイドオーツカに泊まるもので、人の輪ネットからは子ども5人を含む総勢9人で参加しました。

まず楽しかったのは行きの車中。東京災害ボランティアネットワークの福田さんがバスガイドに扮して東京案内をしました。高速道路から見える風景のなかに作家の宮部みゆきが暮らしているとか、福田さんの母校が見えるかもしれないとか、そんなガイドを聞くうち、無味乾燥なコンクリート・ジャングルが人の気配を感じる命が通ったものを感じられてきました。

車窓を左右に眺めているとあっというまに県境を越え、九十九里浜です。浜辺には、大震災のときに津波が押し寄せた痕がまだ残っていました。

この旅でなによりうれしかったのは、普段なかなか会えない避難の人たちが集まったこと。初めてお会いする方もいれば、久しぶりの顔もあり、みんなで芋煮を囲み、ディナーを楽しむ貴重な機会になりました。

次は、宿泊したホテルのホスピタリティーです。震災の記憶が風化していくなか、応援に勇壮な太鼓演奏を披露して下さるなど、思いがけない励ましと歓迎を受けて本当に勇気づけられました。

一緒に参加したお母さんたちは、それぞれにプールやカラオケで日頃の疲れを癒された様子でした。個人的には温泉に魅かれての参加だったので、都会を離れ大海原を前にしてゆったりとくつろぐ一夜となりました。

子どもたちは避難住宅を離れ、久しぶりに広くて天井の高い部屋で、のびのび元気に過ごしました。スタッフのみなさん、遊び相手をありがとうございました。

最後になりましたが、実行委員会のみなさま、お疲れさまでした。



広域避難者大交流会 2014 秋のバスハイク企画に参加して

東北の絆 サロン FMI 会 木幡四郎

東北の絆 サロン FMI 会は、町田市に避難している福島・宮城・岩手 3 県の人たちで集まり、親子の孤立化防止・助け合い・明るく楽しく生活をし、絆の輪を広げようと設立された会です。

私たちは、このバスハイクと同じ日に大山ハイキングを予定しておりましたが、広域から故郷の方たちが参加されるという事で、私たちもこちらのバスハイクに参加させていただきました。到着後すぐに芋煮の準備に大勢の方が応援して下さり、順調に事が運び、すでに、その場で知らない人同士がいつの間にか以前から知っているような光景が目につきました。また、各テーブルに実行委員が回って話を聞いたり、同じ県の方の紹介をしたりで盛り上がっていたことが印象的でした。また、ソーシャルワーカーの方にも 5 人ほど精神的なことで相談をしておりました。これからも専門的な方も一緒に参加の呼びかけをしては如何かな、と思いました。

食事の時も同じく、交流の場が明るい笑顔で話が華が咲いたようでした。2 次会のカラオケでは、歌う人、歌わない人も何も気にしないで参加していただき、交流の場として少しでも気が晴れ、満足をされたのではないのでしょうか。

また、帰る時には、すでに次回のバスハイクはいつ頃かと聞く方もおられました。このことを聞いた時に、参加してよかったなと思いました。

ご協力いただいた連絡会の方、実行委員の方々のお蔭で、避難者の方々が感謝の笑顔で帰られたことに安心しております。

役員の方々、お疲れ様でした。



夕食後はカラオケ大会。想像以上の方が集まって楽しく歌いました

バスハイク 2014 交流会に参加して

青空会 山田えい子

「青空会」は 4 名参加させていただきました。

又、実行委員会からお仲間入りさせていただき感謝致しております。

実行委員会の回が重なるにつれ、企画、内容が具体化するにつれ、東京に避難して来てから、車イス生活をしている私にとって、この 3 年数ヶ月の間、東京から一歩も出たことがありませんので、実行委員会に参加させていただいているにも関わらず、参加を決意するには「一大決心」が必要でした。車イスであり、他の参加者の方々、又、スタッフの方々に御迷惑をお掛けすることは目に見えておりましたので…。

でも、このバスハイクの趣旨である「交流会」に参加することで、私から一歩前進することによって、これからの交流会にひとりでも多くの方が参加して下さり、心を開いてくださることを願い、参加を決意、皆さまにお世話をお掛け致すことは心苦しく思いましたが、この際、全部おまかせして、安心して参加させて頂きました。

行き先はシーズンオフの一宮と云うことで、環境も景色も良く、行く先々時間にも余裕があり、私の身体にもまったく負担もなく、最適な旅をすることができました。夕食のテーブルでは初めて顔を合わせたにもかかわらず、大いに交流の花が咲き、会話も大いにはずみ、おいしい芋煮から始まった、三度の食事大変、満足させて頂きました。

食事の後のカラオケタイムも、素人はだしのプロ歌手顔負けのつづぞろいで、大変楽しい一時を過ごさせて頂きました。次回が待ち遠しいです。

今回の様に、ゆったりとして時間に余裕があれば次回は会の年配の方や私のようにどこへも行ったことがない人達にも気軽に参加の声かけができるし、一人でも多くの方をお誘いできると確信しております。

思い切って参加させて頂いたバスハイク、大変、楽しく参加させて頂き、ありがとうございます。また、大変、お世話になりました。

これも一重に支援団体の方々の支援と東京ボランティア・市民活動センターのスタッフの方々のお陰と感謝致しております。また、私達の声かけによって、一人でも多くの被災者の方が立ち上がって下さることを信じております。

本当に楽しい「バスハイク 2014」ありがとうございました。次回、楽しみにしております。



「バスハイク 2014 秋」の交流会に参加して みちのくまほろば会 後藤恭子

広域避難者支援連絡会 in 東京の役員の方々と避難者団体の代表が、バスハイクのスケジュール案について何度も、繰り返し練りにねった交流会の当日、空は重たい雲が広がっていた。

朝 7 時友人 3 名とタクシーで三鷹駅に向かう。キョロキョロしていると東京災害ボランティアネットワークの福田氏がニコニコとヒゲ顔で手を振っていて、ホットした。もう一人の友人を待つ間に私用をすませる。当初の頃は「まほろば会」から、約 10 名の参加希望者があったが、準備が長引いたせいか、だんだんにキャンセルが出た。理由は 11 月の時節、地元イベントが花盛りでその方に引き抜かれてしまったようだ。結果 5 名の参加者で少々心細さは、やむを得ぬことだ。

三鷹より新宿に向かう。西口には見覚えのある顔があり懐かしかった。車中はたちまちにお国言葉でにぎやかになってしまった。高速に出ると福田氏の独壇場、名調子で都内の名所、史跡、街並の解説で盛り上がる。それが又楽しい。高い位置から見下せるし、丁寧な解説ぶりに車内の人は吸い込まれて聞き耳を立てている。さすがは福田節、次回は都内周りをして解説してほしいね、と話合ったものでした。

九十九里浜の海が見えて来た。久しぶりに見る海、本当は大好きな海だったが…今は怖くて憎い海になってしまった！しかし今日の海は凧で平然としている…何事もなかったかのように静かだ。この海に命もろとも、根こそぎさらわれた(･･････)人々のことを思うと頭の芯が熱くなった。自然の怖さ、神の警告を決して忘れてはならないのだ！と肝に銘じる。

早々と「一宮シーサイド」ホテルに到着する。大ホー

ルに入ると、懐かしい顔があちこちから手を振り、駆け寄り、子供に返ったように再会を喜び合う姿を見ると胸がキュンとなる。思う存分に田舎弁で語り合える、という事は不思議と安堵感が広がるのであった。皆の表情がとてもしゃん。嬉しかった。やはり同郷同志の言葉にはならない強い絆なのだろう。

昼食会のイモ煮作りは、ホテル側で手順よく準備してくれて形ばかりの作業となった。事細かい分担作業など不用のあり様、私達は久しぶりにお姫様気分て話に花を咲かせ、つみる事を忘れていた。お楽しみ入浴、カラオケのど自慢で披露し合い心からリラックスすることができたのでは？と思う。楽しい時間はアツという間に過ぎ去り夜が明けると、美味しい朝食、そして帰宅の時が来てしまうのでした。それぞれのバスに別れて乗ると又寂しさが増して、目をウルウルとさせる人も見える。

昼食はシーサイド市場で、手土産を山ほど買い求め最後の別れを惜しみ合っている。又来年も逢いたいよね…元気だね…の言葉が、あちこちから聞こえてくる。3 年振りの短い交流会だったが、こんなにも心が和めて、実りある会であったことに感謝するばかりです。

3.11 のあの日から、3 年の月日の重苦しい日々戦の連続が、この交流会で半減し軽くなったような気持ちになれた貴重な時間だったようだ。「苦しみは、自分だけでない」という呪縛の念のようなものが溶きほぐれたのではないだろうか？

これも偏りにボランティア会の皆様の心の優しさ、温かさ、そして団結した行動力の支援の賜であると、心より深謝するばかり頭の下がる思いです。誠に有がとうございます。帰路周りの人達と話しました。見も知らぬ哀れな避難民の我々を、ここまで優しく温かく親切に支え励ましてくれる人達は他にいないよね…と。

本当に有がとうございました。

実行委員会 みんなで企画を作るために 7 回の実行委員会を開催しました

このバスハイクは、都内各地で活動している避難当事者の団体と広域避難者支援連絡会 in 東京に参加している支援団体で実行委員会を設けて、企画・運営に取り組みました。

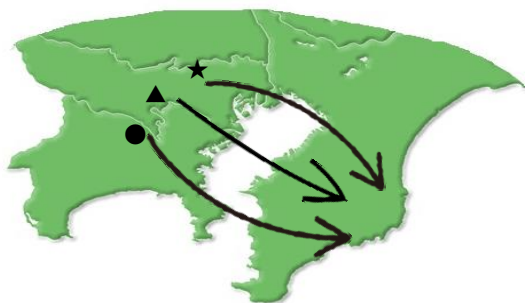
実行委員会は半年前の 6 月から実施後の 12 月まで計 7 回実施され、バスハイク一か月前には現地見をしています。



小雨模様を見上げながら最後の打ち合わせをする実行委員会メンバー

広域避難者の広域交流 広域での交流にバスは必須でした

バスハイクでは、3台のバスをチャーターしました。都内の電車事情に詳しくない方や自家用車を持っていない方も多く、あらためて広域避難者支援における広域交流が難しいことがわかりました。



- ★東京駅→東雲住宅→シーサイドオーツカ
足立区新田ふるさと会/東雲の会/人の輪ネット/とみおか子ども未来ネットワーク
- ▲三鷹駅→新宿駅→シーサイドオーツカ
むさしのスマイル/みちのくまほろば会/鷲宮都営住宅自治会/コスモス会/青空会
- 町田駅→シーサイドオーツカ(小型バス)
東北の絆 サロンFMI会

ご協力いただいた皆さま 様々なご協力ありがとうございます

ホテル一宮シーサイドオーツカ/株大塚商会/ちよだボランティアセンター/関東バス(株)/東京労働者福祉協議会/全労済東京都本部/東京都生活協同組合連合会/(株)勤労者サービスセンター/真如苑/昌玲寺/まっくす/東京ボランティア・市民活動センター/全労済/中央労働金庫/いたばし総合ボランティアセンター/震災がつなぐ全国ネットワーク/東京災害ボランティアネットワーク

そして参加して下さった77名の皆さん



- ◆連絡先 広域避難者「秋の大交流会～バスハイク2014秋～」実行委員会
事務局 広域避難者支援連絡会 in 東京 (東京ボランティア・市民活動センター内)
電話 03-3235-1171 FAX 03-3235-0050
メール kouikihinan@tvac.or.jp